

## 2017年度 センター試験 倫理（本試験） ワンポイント解説

第1問	問1	①SOL(生命の尊厳)は、人間の生命に絶対的な価値があるとする考え方であるので、安楽死も尊厳死も認めない立場である。②QOL(生命の質)は、患者の人間らしい生活の回復を目指すので、患者の意向を無視するパターンリズムと結びつかない。③リビング・ウィルは、自分の死のあり方について生前に表明しておくことなので、延命治療とは無関係である。④生命に絶対的尊厳を認めるのは、SOL である。
	問2	イ アリエスの「小さな大人」とは、中世ヨーロッパで、子どもは大人と仕事や遊びをともにしながら成長したことをいう。ウ 青年を「マージナル・マン」と呼んだのはレヴィンである。
	問3	ア ボッティチェリは「春」や「ヴィーナスの誕生」を描いている。イ 雪舟は水墨画の大成者である。ウ ピカソはスペインの画家で、スペイン内乱でファシズムに抗議し、「ゲルニカ」を描いた。
	問4	①は反動形成、②は代償、③は合理化の事例である。
	問5	①60 歳以上では、項目イは項目ウよりも数値が低い。②項目アと項目エの間の数値の差は、50～59 歳よりも60 歳以上のほうが小さい。④30～39 歳では、項目ウの数値は項目エの数値の2 倍以下である。
	問6	①の「自分と異質な人を憎悪」は引用文に記述がない。②の「自分と同等であることを憎悪」とあるが、引用文では「平等への愛着」とある。④の「自己と他者の差異を手がかりにして」とあるが、引用文には「差異を見ることは耐え難くなる」とある。③の「強大な権力の支配に進んで身を委ねる」とは、「権利が国家の唯一の代表者の手に次第するようになる。この主権者(権力者)は、…市民のうえに立つ存在であり、いかなる市民の嫉妬をかうこともない」という引用文の内容と合致する。
	問7	持続可能な開発は、環境保全と長期的発展がともに大切であるとする考えであり、②が適当。①「高い経済成長率」ではない。世代間倫理とは、現代の世代は未来の世代の生存可能性に対して責任があるということをいう。
	問8	単独者とは、世俗世界に生きながらも、精神的にはそれと決別して神の前にひとり立つ者をいう。権威主義とは、上位者の権威に服従し、下位者に高圧的な態度を指し、ファシズムを支える心理である。ホイジンガは人間をホモ・ルーデンス(遊戯人)と呼んで、文化の本質は遊戯にあると考えた。
	問9	①ボードリヤールによれば、商品は他者との差異を示す記号として現れるのであって、消費が目的ではない。③ブーアスティンによれば、メディアは自らに都合よく本当らしく演出した出来事(擬似イベント)を報道し、視聴者はそれを本当らしいと思いつむ。④マクルーハンによれば、映画やテレビなどのメディアによって感覚的なイメージが大量生産され、それが人々の思考や想像力を発達させた。
	問10	②は、「個々人が自己の内面を見つめ」という箇所が本文に記述がない。③④では、B は「優れた芸術作品が生まれる可能性を見いだす」、また「ある作品が真の芸術と言えるかどうか」と言うが、本文では、B は真の芸術に無関心である(B の第三発言)。
第2問	問1	①ソクラテスは、金銭や地位よりも魂の配慮を重視した。②イスラーム教では、利子を得ることは禁じられている。④原始仏教では、苦行ではなく中道が主張されている。
	問2	アウグスティヌスは、人間は原罪を負うので、神からの無償の恵みである恩寵によってのみ救われるのであり、その恩寵は教会を仲介として与えられる、と主張した。なお、④はルターの贖宥状批判である。

	問 3	ア ムハンマドが最後の預言者であって、それ以降のカリフは預言者とされない。イ イスラーム教は政教一致であり、宗教的ウンマと政治的ウンマに分離されない。
	問 4	①ウパニシャッド哲学は梵我一如を説くので、アートマンは否定されない。②六師外道とは、ブッダの時代の 6 人の自由思想家を指し、反バラモン教的かつ非仏教的であった。④バラモン教は多神教である。
	問 5	ストア派については、国家の枠組みを超えたロゴスという考え方が、後に時代や地域を越えた普遍的な自然法という考え方へとつながった。また、新プラトン主義者としては、ローマ時代のギリシア哲学者プロティノスが著名である。
	問 6	①万物流転を説いたヘラクレイトスは、万物を支配する理法(ロゴス)の存在に言及している。③プラトンによれば、イデアは想起によって認識可能である。④原子論は、自然哲学者のデモクリトスやヘレニズム時代のエピクロスが有名である。
	問 7	引用文は、その当時の万物一体の仁という考えを批判する。万物一体の仁は人を差別せず平等に愛せよと説く墨子と同じであるので儒家的ではないからである。これと合致するのは④となる。
	問 8	孔子の重んじる礼の由来は、古代中国における祖先を祀る祭礼の儀式であり、祖先に対する祭祀儀礼も重視される。
	問 9	①は、先哲の目標は実現不可能というが、最終段落では「先哲は…よりよい生のあり方を提示した」とあって、不可能だとは言っていない。②は、貧困や差別をなくさない限り救済されないというが、本文にそのような記述はない。③は、神や統治者に無批判に従うというが、本文にそのような記述はない。なお、孟子は不徳の王の地位は奪ってもよいとする革命説を唱えており、③の内容に反する。
第3問	問 1	②アマテラスは主神であって「絶対唯一の貴い神」ではない。③仏が神の仮の姿であるというのは反本地垂迹説であって、鎌倉時代末期の蒙古襲来以降に唱えられた。④日本は伝統的に神仏習合であり、仏と神が対立するという考えはほとんど主張されていない。
	問 2	①は、源信の『往生要集』の一節。②は、空海の密教の考え。④は、夏目漱石の言葉。
	問 3	ア 法然は、称名念仏によって一切衆生が往生できると主張しており、身分や能力に応じた念仏を考案していない。イ 道元は、ただひたすら坐禅するという只管打坐によって、念仏・看経・公案の必要性を否定した。ウ 栄西は、坐禅の他に戒律の遵守も主張しており、『興禅護国論』では禅の修行によってすぐれた人材を育成できると述べた。
	問 4	①時期・場所・身分に応じた実践は中江藤樹の思想である。③朝鮮の言語と文化を研究して、文化交流に尽力したのは雨森芳洲である。④佐久間象山の「東洋道德、西洋芸術」は東洋の道德(朱子学)とともに西洋の技術を学ぶべきである、という意味であって、朱子学批判ではない。
	問 5	②の「自分の考えを重んじて解釈する」は、引用文の「古聖人の書をはなれて別に自分の見識これ有り」に相当し、また「偏狭な人間になる」は「人柄悪しく成り」に相当する。
	問 6	①契沖は、国学の先駆者であり、儒仏の解釈を退けて、古典それ自体の文献学的実証的研究によって古代日本人の精神を知るべきだと主張し、万葉集を研究した。②荷田春満は、契沖の万葉学に傾倒し、伊藤仁斎の古義学的方法論を用いて、日本古来の精神を明らかにしようとした。心学は石田梅岩の立場をいう。③本居宣長は、物事に触れて生じるありのままの感情を肯定したのであって、それを抑えようとしたのではない。
	問 7	中村正直は、J.S.ミルの『自由論』を『自由之理』という題名で翻訳した。中江兆民は、恩賜的民権の育成を唱えた。陸羯南は、日本の伝統的価値観を保持する国粹主義、そして国民的統一を意味する国民主義を主張した。

第4問	問8	柳宗悦は、無名の職人による日用品に美を見だし、そのような作品を民芸と名づけた。なお、①のまれびとは、折口信夫の主張する日本の神の原像である。
	問9	本文の第四段落は、岡倉天心の西洋・東洋に共通する価値観の探求が主題であり、②のいう外来の文化の模倣ではなく、④にある外来文化の普遍性に対する称賛でもない。また③で述べている自国の価値観に基づく外来文化の批判的検討というのは、第四段落の内容であって、他の段落内容とは異なる。
	問1	①モンテーニュは、宗教戦争を批判する立場から、自らの正しさを疑うということによって独断と偏見を避け、謙虚かつ寛容になり、より深い真理探究に励むことを訴えた。
	問2	④デカルトは、精神が疑う余地なくはっきりと認識し、他のものからはっきりと区別することが、明晰判明なる真理の基準である、と考えた。①は、帰納法を提唱したベーコンである。②は、生物進化の法則を唱えたダーウィンである。③は、心は白紙として生得観念を否定したロックである。
	問3	ア サルトルは、人間とは選択と行為によって自らを作り上げる自由なる存在であると述べたが、各自の利益と幸福を追求する市民社会の実現については、特に言及していない。イ ルソーは、一般意志の指導の下に社会を形成し、自然的自由を破棄して自ら制定した法に従うことによって市民的自由を獲得すると主張した。ウ ホッブズは、各人が自己保存のために自由に行動することを自然権として認めており、そのために自然状態は万人の万人に対する闘争状態になると述べた。
	問4	引用文の主旨は以下の通り。(1)人間は道徳法則に反する行為をした場合には、それは避けられないことだから自分に責任はない、と巧みに弁明したが。(2)しかし、行為の際に自分で不正だと判断しているという点で、自らの自由を行使したのであり、自責を覚え続けざるを得ない。(3)だからその後も、時に思い出しては後悔するのである。以上の(1)～(3)の主旨から、正解は②となる。
	問5	ア 敬虔なカトリック教徒であるトマス・モアは、私有財産のない理想社会を描いた『ユートピア』を著している。イ サルトルと人生を共に歩んだボーヴォワールは、『第二の性』で女性解放を訴えた。ウ ロールズは、公正としての正義を論じ、格差は社会的最弱者の生活改善につなげるべきだとする格差原理を主張した。
	問6	パラダイムとは、科学者が共通して抱いている基本的な考え方の枠組みをいう。ある時代のパラダイムに合わない異常現象が頻繁に確認されると、やがて新しいパラダイムによって取って代わられるというパラダイムの転換が生じ、科学革命が起こる。
	問7	プラグマティズムのデューイは、学問や知識は人間が行動する際に役立つ道具である、という道具主義を唱えた。日常生活の困難のなかで、見通しを立てて未来を展望する能力を創造的知性(実験的知性)と呼び、このような問題解決を子どもは学習すべきだと『民主主義と教育』で主張した。
問8	①人間はすでにこの世界に投げ出されており、そして死へと向かう存在である、と主張したのは実存主義者のハイデッガーである。②フッサールは現象学を唱えた。意識は自らを超えて外部世界へ向かう。③不条理は、実存主義作家カミュの概念である。人生は何ら意味のない、矛盾だらけの偶然的存在にすぎない、という考えである。④フッサールは、物事の妥当性を懐疑することは主張していない。	
問9	①「最も確実な自然科学を模範として」とあるが、第二段落では、カントは自然科学的必然性に囚われない自由の可能性を追求しており、第四段落では、法則主義的・機械論的ではない、ベルグソンの有機体的・進化的自然観が紹介されている。②「自然と精神や社会とは領域が異なる」とあるが、第三段落では両者の一致が説かれている。④「時代に左右されない」ということは、どこにも言及されていない。	